

事業番号	09 03 13	事業改善シート (25年度実施事業分)			<input type="checkbox"/> 予算要求	<input type="checkbox"/> 当初予算案	<input type="checkbox"/> 補正予算案	<input checked="" type="checkbox"/> 点検
事業名	農業大学校費				担当課	部局	農政部	
総合5か年計画	プロジェクト				課・室	農業技術課		
	施策の総合的展開	1-3 夢に挑戦する農業 1夢ある農業を实践する経営体の育成			E-mail	nogi@pref.nagano.lg.jp		
					実施期間	S51 ~		

1 事業の概要

目指す姿	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により、農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識・技術を修得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により、他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材を養成する。																																															
現状	○農業教育の拠点として、農業技術の習得と経営改善に対応できる能力を備えた農業の担い手を養成しており、平成24年度の農学部学生は143人となっている。 ○平成23年度卒業生は就農や農業協同組合、農業関連企業に就職し、卒業生の多くが本県農業の振興に寄与しているが、就農率は38.8%と低迷している。																																															
県が関与する理由	県でなければ実施不可(法令等義務) 【左記の説明、根拠法令等】 農業改良助長法第7条の5において、県は、農業後継者等に対し、技術及び知識を習得させるための教育を行うことと明記 県民との協働による実施：困難 農業改良助長法(国)、長野県農業大学校条例(県) 長野県食と農業農村振興計画																																															
事業内容	① 成果目標 (H25) ・ オープンキャンパスや高校等への訪問を積極的に実施し、農学部総合農学科の定員充足率を100%とする。 ・ 質の高い講義・実習を実施し、農学部学生の規定単位充足率を100%とする。 ・ 就農に向けた支援を積極的に実施し、農学部卒業生の就農率を向上させる。(38.8% (H23)→48.0% (H27)→67.0% (H29))																																															
	② 事業内容 (単位:千円) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th rowspan="2">実施方法</th> <th rowspan="2">H25事業実績</th> <th colspan="2">H25</th> <th>H26</th> </tr> <tr> <th>(当初)</th> <th>(決算)</th> <th>(当初)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業大学校運営費</td> <td>直接</td> <td>・就農を希望する農家・非農家出身者に対し、講義や実習により、農業に関する知識と技術の習得を図った。</td> <td>42,894</td> <td>39,768</td> <td>47,903</td> </tr> <tr> <td>実科・研究科費</td> <td>直接</td> <td>・生産基盤を持つ農家出身者を主体に、農業関係試験場での実習を通じて栽培技術の習得を図り、就農へとつなげた。</td> <td>6,386</td> <td>5,779</td> <td>6,514</td> </tr> <tr> <td>研修部費</td> <td>直接</td> <td>・里親前基礎研修や農業機械技術習得研修を通じて新規就農者の技術力向上を図った。</td> <td>10,216</td> <td>9,472</td> <td>10,678</td> </tr> <tr> <td>農業大学校施設整備費</td> <td>直接</td> <td>・畜産コースの家畜から排泄される糞尿を学生の実習で堆肥化した物を、実習ほ場へ投入するための運搬車を導入した。 ・果樹コースの学生が、広い樹園地の除草作業を学ぶための乗用除草機を導入した。</td> <td>1,429</td> <td>1,958</td> <td>4,599</td> </tr> <tr> <td>農業大学校改革推進教育施設等整備事業</td> <td>直接</td> <td>・将来の本県農業を担う人材育成の一層の推進を図るため、平成26年度からの農業大学校改革の着実な実行に必要な施設・機械等を一体的に整備した。(6月補正・9月補正)</td> <td>0</td> <td>351,463</td> <td>1,359,622</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>60,925</td> <td>408,440</td> <td>1,429,316</td> </tr> </tbody> </table>				項目	実施方法	H25事業実績	H25		H26	(当初)	(決算)	(当初)	農業大学校運営費	直接	・就農を希望する農家・非農家出身者に対し、講義や実習により、農業に関する知識と技術の習得を図った。	42,894	39,768	47,903	実科・研究科費	直接	・生産基盤を持つ農家出身者を主体に、農業関係試験場での実習を通じて栽培技術の習得を図り、就農へとつなげた。	6,386	5,779	6,514	研修部費	直接	・里親前基礎研修や農業機械技術習得研修を通じて新規就農者の技術力向上を図った。	10,216	9,472	10,678	農業大学校施設整備費	直接	・畜産コースの家畜から排泄される糞尿を学生の実習で堆肥化した物を、実習ほ場へ投入するための運搬車を導入した。 ・果樹コースの学生が、広い樹園地の除草作業を学ぶための乗用除草機を導入した。	1,429	1,958	4,599	農業大学校改革推進教育施設等整備事業	直接	・将来の本県農業を担う人材育成の一層の推進を図るため、平成26年度からの農業大学校改革の着実な実行に必要な施設・機械等を一体的に整備した。(6月補正・9月補正)	0	351,463	1,359,622	合計			60,925	408,440
項目	実施方法	H25事業実績	H25					H26																																								
			(当初)	(決算)	(当初)																																											
農業大学校運営費	直接	・就農を希望する農家・非農家出身者に対し、講義や実習により、農業に関する知識と技術の習得を図った。	42,894	39,768	47,903																																											
実科・研究科費	直接	・生産基盤を持つ農家出身者を主体に、農業関係試験場での実習を通じて栽培技術の習得を図り、就農へとつなげた。	6,386	5,779	6,514																																											
研修部費	直接	・里親前基礎研修や農業機械技術習得研修を通じて新規就農者の技術力向上を図った。	10,216	9,472	10,678																																											
農業大学校施設整備費	直接	・畜産コースの家畜から排泄される糞尿を学生の実習で堆肥化した物を、実習ほ場へ投入するための運搬車を導入した。 ・果樹コースの学生が、広い樹園地の除草作業を学ぶための乗用除草機を導入した。	1,429	1,958	4,599																																											
農業大学校改革推進教育施設等整備事業	直接	・将来の本県農業を担う人材育成の一層の推進を図るため、平成26年度からの農業大学校改革の着実な実行に必要な施設・機械等を一体的に整備した。(6月補正・9月補正)	0	351,463	1,359,622																																											
合計			60,925	408,440	1,429,316																																											

事業コスト	区分(単位:千円)	23年度	24年度	25年度	26年度	成果目標の達成状況						
	予算額	前年度繰越	0	0	0		項目	H24末(実績)	H25			H26目標
		当初予算	62,076	65,106	60,925	1,429,316			目標	成果	達成状況	
		補正予算	4,092	5,459	398,580		農学部定員充足率(%)	66.8%	100%	68.6%	未達成	100%
		合計(A)	66,168	70,565	459,505	1,429,316						
	Aの財源	国庫支出金	12,499	13,212	413,523	16,095	農学部卒業生就農率(%)	37.3%	42%	36.8%	未達成	45%
		県債	0	0	0							
		その他(財産収入)	7,457	13,025	7,634	1,367,340						
		一般財源	46,212	44,328	38,348	45,881						
	決算額(B)	63,783	66,980	408,440								
概算人員費	職員数(人)	33.00	33.00	31.00	31.00							
概算事業費(B(A)+C)	概算人員費(C)	272,514	272,514	255,998	255,998							
		336,297	339,494	664,438	1,685,314							

目標に対する成果の状況	定員充足率は総合農学科は、募集定員を超える84名の応募者があり、ほぼ定員となる59名に合格通知を送付したが、大学との併願等による入学辞退者が10名あり定員を確保できなかった。実科研究科は、農家子弟を中心に応募があったが、定員を満たすことはできなかった。 農学部全体の充足率は、68.6%と目標値は達成できなかったが、過去7年間の平均値(H18~H24)の61.2%を大きく上回ることができた。 卒業生の就農率はJA等農業関係団体への就職者が例年より多かったため未達成となったが、社会人を一定期間経験したのち就農を考えている学生もいる。
-------------	---

2 今後の事業の方向性

今後、事業をどのようにしていきたいか	<input type="checkbox"/> 事業を実施しない <input checked="" type="checkbox"/> 事業を見直して実施 <input type="checkbox"/> 事業を現行どおり実施 H26年度から、企業的農業経営体の育成を目的とした実践経営者コースの開設や既存コースの農家実習の拡充(24日→45日)、外部講師の充実等、農大全体の就農率向上のため、農大改革を進める。また、学生の教育環境の整備を行うため、学生寮や管理実習棟等の建設を行う。 就職者の中にも、社会人を一定期間経験したのち就農を考えている学生もいることから、就農推進技幹を中心に、普及センターや市町村等と連携を図り、就農支援を行う。
--------------------	--